

病理診断科

部長：原 重雄

神戸市民病院機構 多施設研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院では、過去 7 年に育った病理医は病理専門医 5 名で、かなり教育に重点を置いています。当プログラムでは、豊富で多彩な症例と意識の高い臨床医に揉まれながら、基本的な態度、症例に対する立ち位置、正常構造に対する深い理解、肉眼所見から組織所見への連続的、立体的な理解と、定型例を素早く処理する技術、非定型例を拾うセンスと丁寧な検索方法、症例から学んで力を付ける方法、書物などから勉強する方法、批判的な書物の解釈、技師や臨床医との接し方、臨床医や他施設の病理医に対する症例提示能力などを身につけることが可能です。当科の研修プログラム期間（3 年間）は、病理診断のトレーニングからすると決して長いものではありませんが、限られた時間で病理診断医としてその後も活躍できる土台となるよう指導していきます。

概要

本プログラムでは、神戸市立医療センター中央市民病院を基幹施設として、同機構の西市民病院、西神戸医療センター、兵庫県立こども病院、加古川中央市民病院、神戸大学医学部附属病院病理診断科、京都大学医学部附属病院病理診断科、市立札幌病院、神鋼記念病院を連携施設とします

各施設の特徴

神戸市立医療センター中央市民病院 <http://chuo.kcho.jp>

指導医 3 名（専門医 3 名）、専攻医 3 名、技師 9 名で業務をこなしています。市中大規模病院の特性を生かし、オーソドックスな疾患から症例報告可能な希少疾患まで様々な症例について経験を積むことが可能です。病理医としての経歴の早いうちに様々な症例の臨床病理像を経験しておきたいという方にお勧め出来る研修内容です。臨床医との距離が近く、数多く行っている院内カンファレンスを通じて、臨床医と対話する中で疾患の背景や考え方を知る機会が多いのも市中病院ならではの点です。

スタッフ：	原 重雄	部長（病理、細胞診専門医、分子病理専門医） 平成 10 年卒
	伊丹 弘恵	医長（病理、細胞診専門医）平成 17 年卒
	山下 大祐	医長（病理、細胞診専門医、分子病理専門医） 平成 20 年卒
	政岡 亜実	専攻医 令和 3 年卒
	山川 惇之介	専攻医 令和 4 年卒
	内本 梓	専攻医 令和 4 年卒

約 15,000 件

解剖:約 20 件

専門研修連携施設である兵庫県立こども病院は、周産期医療及び小児医療専門病院です。病床数は290症と少なく、症例数も年間約1000件と少ないですが、兵庫県下の小児疾患が集約されています。小児疾患は個々の疾患が稀少なので、院内では個々の疾患について多科合同カンファレンスが行われ、全国的には疾患登録されて中央病理診断が行われ

ています。全国の他の小児専門施設の病理間での交流の機会も、小児病理研究会や関西小児病理研究会など、多くあります。稀少疾患の病理診断及び、症例ごとの多科合同カンファレンス、小児病理研究会等での他の小児専門施設の病理間の交流などを体験して頂けたら幸いです。

スタッフ： 吉田 牧子 部長（病理専門医、細胞診指導医）平成7年卒

症例数： 組織診:約 1,000 件、迅速:約 50 件、細胞診:約 250 件、解剖:約 2-3 件

加古川中央市民病院 <https://www.kakohp.jp/>

加古川中央市民病院は、2016 年 7 月に旧加古川西市民病院と旧加古川東市民病院が統合してできました。東播磨医療圏の基幹病院として、急性期および高度急性期医療を担う病院として地域医療に貢献しています。指導医 1 名と医師 1 名、検査技師 5 名で年間 8,900 例の病理診断、4,000 例の細胞診、350 例の迅速診断を行っています。2018 年 4 月からは乳腺外科も新たに発足し、乳癌診療の新たな拠点として地域に貢献していきます。

スタッフ： 今井 幸弘 部長（病理専門医、細胞診指導医、内科専門医）昭和 62 年卒

市川 千宙 医師 平成 22 年卒

症例数： 組織診:約 8,900 件、迅速:約 350 件、細胞診:約 4,000 件、解剖:約 10 件

市立札幌病院 www.city.sapporo.jp/hospital/

32 科を有する札幌市の急性期病院で、専門医試験を受けるまでに経験する必要がある疾患をほとんど経験することができます。専攻医 1 人あたり、年間 1300~3000 件程度の組織診断を経験できます。剖検数も安定しており（年間約 20 件）、専門医受験に必要な件数を概ね単施設で経験可能です。また、年間 800 件ほどの腎生検を院内外から受託する、腎生検診断のハイボリュームセンターであるため、腎病理・移植腎病理を集中的に学ぶことができ、将来的に腎病理の専門家として活躍する道も開かれています。スタッフは学会発表や論文作成の経験が豊富で、学術活動についてきめ細かな指導が受けられます

スタッフ： 辻 隆裕 部長（病理専門医、細胞診指導医）平成 11 年卒

仲川 心平 副医長

山口 貴子 一般職

青山 怜史 一般職

症例数： 組織診:約 6,700 件、迅速:約 200 件、細胞診:約 5,800 件、解剖:約 10 件

神鋼記念病院 <https://shinkohp.jp/>

29 診療科を有する急性期病院です。乳腺外科の症例がとりわけ多く、2022 年は年間 451 件で兵庫県内で最も多い症例数です。常勤病理専門医は 2 名おり、それぞれ呼吸器、乳腺病理を専門としており、専門的な病理診断指導が可能です。

スタッフ： 大林 千穂 部長（病理専門医、細胞診指導医）昭和57年卒
田代 敬 医師 平成9年卒
症例数： 組織診:約8,900件、迅速:約350件、細胞診:約4,000件、解剖:約10件

京都大学病院病理診断科 <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~pathology/index.html>

それぞれの専門領域を持つ指導教官による日々の診断指導や毎週の教育コース、多くの学術誌、院内病理データベース、招聘講師など、様々なリソースから学ぶことができます。デジタル遠隔診断の研修も行います。

スタッフ：羽賀 博典 教授（病理専門医、細胞診指導医）他

神戸大学病院病理診断科 <http://www.med.kobe-u.ac.jp/byouri/>

各疾患の臨床病理学的な事項を十分に学ぶことができます。毎日全員で病理標本を見合わせるカンファレンスも開催され、無理なく実践的な病理診断学を習得することが可能です。毎月関連施設との合同の症例検討会が開催され、難解症例、教育症例、希少症例に触れることも可能です。

スタッフ：伊藤 智雄 教授（病理専門医、細胞診指導医）他

一般目標

病理解剖を一人で行い、報告書が作成できるようになる。一般的な症例に関して、手術検体、生検検体、術中迅速の診断を一人でできるようになる。

行動目標

1 年目(神戸市民病院機構)：	生検、手術材料に関して患者から検体が採取されてから診断に至る過程を理解する。著しく偏らない手術症例に関して肉眼診断を行い、臨床の要望、疑問点、腫瘍病期の決定に必要な情報を得ることが出来るよう自ら臓器の切り出しを行い、検鏡、報告する。必要に応じて、病変分布図の作成を行い、頻度の高い悪性腫瘍などの形態と生物学的性格、組織解剖学的背景との関係を理解し、併せて正常構造を深く理解する。特に手術症例については、検鏡、病変分布図の作成を行い、頻度の高い悪性腫瘍などの形態と生物学的性格、組織解剖学的背景との関係を理解し、併せて正常構造を深く理解する。指導医と共に解剖業務に従事し、解剖の手技、病態の把握、報告書作成の能力を身に付ける。
2 もしくは3 年目(神戸市民病院機構、大学、加古川中央市民病院、市立札幌病院、神鋼記	病理解剖業務、手術・生検症例の診断を行い術中迅速診断にも参加する。著しく偏らない生検例について自ら病理組織学的診断を行い、指導を受ける。病理診断に必要な免疫染色、特殊染色を自ら選択し、評価するとともに、診断に関連して臨床医とコミュニケーションを取る。院内、院外で症例提示を行い、プレゼンテーションの能力を身に付ける。特殊症例については、適宜コンサルテーションを行い、必要であれば症例報告についても執筆する。経験が著しく不足した領域

念病院) :

に関しては他の施設でも研修する（小児例に関しては兵庫県立こども病院で研修する）。

専門研修プログラム

神戸市民病院機構病理専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL :

http://chuo.kcho.jp/department/clinic_index/others/pathology/information/resident

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident_medical

見学等問い合わせ先

原 重雄 : shigeo_hara@kecho.jp